

SY4-1

未来への種まき：NICU学校プロジェクト

豊島 勝昭

神奈川県立こども医療センター新生児科

未来の父母や医療職志望者への小児医療の啓蒙、教育関係者との連携を目的に、神奈川県において2008年より〈NICU学校プロジェクト〉を開始した。ボランティアコーディネーターやNICU退院家族の教育関係者と連携して、県内の小・中・高校において「NICUのいのちの授業」を広報し、開催してきた。

事前学習として、NICUに関する報道記事を活用した。授業はNICUのニュース動画などでNICUの様子を追体験した上で、NICUにおける早産児、先天性疾患、ダウン症、18トリソミー、脊髄髄膜瘤、新生児低酸素虚血性脳症などのNICUから在宅医療にわたる診療や家族の写真を交えて話した。疾患や治療を解説するのではなく、医療者がどのような気持ちでどのような説明をしたかを伝え、ご家族がどのような想いでNICUの診療を受けていたか、NICU卒業後の生活や振りかえっての気持ちなどを物語の内容を患者家族とともに目指した。授業後はグループワークなどで生徒同士で意見交換して、感想文の記載、アンケート回答などをしてきた。

13年間で39校において72回、20012名の生徒に授業を担当した。中学2年生への授業依頼がもっとも多かった。授業開始当初は中学2年生において授業前は7割以上がNICUを知らないという回答だった。中高一貫校で同じ授業をした中学1年と高校3年のアンケート調査では、授業後は「興味深かった」という回答は中1で65%、高3で74%。「つまらなかった」という回答は中1で9%、高3で3%であった。感想を大別すると「〈無事に誕生、成長〉が当たり前ではないという気づき」、「自分の生命を大切に生きていきたい想い」、「自分に関わる人たちへの感謝」、「障害とともに生きる人達への理解」、「自分が出来ることをしたいという気持ちの芽生え」などであった。

授業に派生して、当該学校に関連するPTA連絡協議会や教員講習など地域での講演会の依頼が増加して、学校を通じて新生児・小児医療の認知度を県内で高められた。2020年にNICU学校プロジェクトの関係者と授業をきっかけに現在は医療者や医学生になっている人達と執筆した「NICU命の授業：小さな命を守る最前線の現場から」が書籍化された。

小・中・高校における小児医療に関する「いのちの授業」は、生徒それぞれが命や健康、様々な障害について考える機会、小児医療と教育の連携の向上、NICU退院家族の地域における理解と支援のきっかけ、小児医療職志望者の増加などにつながると考える。